

東京大学総合図書館蔵『山海異形』について

齋藤 真麻理

*キーワード

奈良絵本・明代日用類書・山海経・三才図会

本稿は、中近世日本における明代日用類書の享受を伝える一例として、東京大学総合図書館蔵の奈良絵本『山海異形』の解題と翻刻、画像を掲載するものである。

本書は『山海経』を彷彿させる異形の禽類を収載した一書である。同趣の奈良絵本は現在、数点が確認されており、それらの生成基盤が万暦・崇禎年間（一五七三～一六四四）に陸続と出版・舶載された明代日用類書であることは、すでに別稿で論じた（「描かれた異境―明代日用類書と『山海異物』」『絵が物語る日本 ニューヨーク スペンサー・コレクションを訪ねて』三弥井書店、二〇一四年三月）¹⁾。本書は田安德川家の旧蔵本であり、装訂等の近似から、同じく田安家旧蔵の天理図書館本のツレである可能性も判明した（『新天理図書館善本叢書 第30巻 奈良絵本集8』『山海異形解題』（石川透・齋藤共著）参照。八木書店、二〇二〇年二月）。これらを承けて、奈良絵本および明代日用類書の受容をめぐる研究の一助とすべく、本書の全容を紹介することとした。以下、本書の書誌を記す。

所蔵者名 東京大学総合図書館。函架番号、T86/268。

所蔵者整理書名 山海異形。

装訂 四つ目袋綴。一冊。

表紙 金泥下絵入り薄茶色表紙。見返しは布目地金紙。

料紙 鳥の子紙。

寸法 縦一七・三cm×横二四・四cm。

外題等 表紙中央に、金泥下絵入りの朱の原題簽「山海異形鳥類」を貼

付。題簽寸法、九・二cm×二・八cm。

字高 約一四cm。

丁数 本文二七丁。前遊紙一丁。後ろ遊紙二丁。ただし、前見返しおよび挿絵丁の折山部分にハガレあり。

挿絵 二六図。

印記 冊初に①「田安府芸堂印」（朱文陽刻方印、四辺五・三cm）、②「旧

和歌山徳川氏蔵」(朱文陽刻方印、四辺三・五cm)、③「猷英楼圖書記」(朱文陽刻長方印、縦三・七cm×横二・〇cm)、④「南葵文庫」(朱文陽刻方印、四辺三・二cm)の四類と「東京帝国大学図書印」あり。

書写年代 江戸時代前期。

備考 背に「山海異形 鳥類」と金字刻印した厚紙の帙に収める。画像掲出に際しては、ハガレによる白紙部分(挿絵ウラなど)は除いた。

本書は右に本文、左に異鳥を一図ずつ描く。本来は魚類に属する「飛魚」一図が混在するものの、「禽類」のみで構成されており、この部分を欠く天理図書館蔵の奈良絵本(神類・獸類・魚類・虫類の四冊本)を補う位置にある。山海の異形を「神類」「禽類」「獸類」「魚虫類」の四種に大別して列挙する点は、万暦・崇禎年間(一五七三～一六四四)刊の日用類書「諸夷門」の特色であって、『山海経』や『三才図会』『本草綱目』等も同種の異形を収録するが、このような分類は用いていない。従って、本書は明代日用類書を主な素材として和文化し、挿絵を奈良絵本に仕立てた一書とみてよい。なお、後掲の翻刻に示したとおり、スペンサー・コレクション本の詞書は原文に比較的忠実であるが、東京大学本は簡略化して詞書としており、『妙錦萬寶全書』などに見られない禽類を含んでいる。また、本来ならば魚類に分類される「飛魚」一図が混在しているが、必ずしも類書の原文とは合わず、『三才図会』の絵画表現に近い部分も見取れる。従って、天理図書館本がそうであったように、本書

もまた明代日用類書に拠りながら、『三才図会』等の文献を参照して制作されたと思しい。そして、本書と天理図書館本とが揃い本であるならば、約140図もの挿絵を備えた奈良絵本『山海異形』が制作され、楽しまれていたことになるのであり、いずれ、大名家をはじめとする相応の享受圏が想定されよう。

〔注〕

(1) 本書のほか、主要伝本は以下のとおりである。

- ①天理図書館本(袋綴四冊。計一一三図。天理参考館特別展『天理図書館古典の至宝』天理大学出版部、二〇一七年。『新天理図書館善本叢書 第30巻 奈良絵本集8』八木書店、二〇二〇年二月)。
- ②ニューヨーク公共図書館スペンサー・コレクション本(袋綴二冊。整理番号MS#61。外題「山海異物上(下)」、内題「山海異物」。計四七図)。

③枳尾武氏所蔵本(端本。「驕虫」以下、計一〇一図)。

④成城大学図書館本(図巻一軸。整理番号388.1KA21/ (W)。

外題「怪奇鳥獸図巻」。計七六図。『怪奇鳥獸図巻』工作社、二〇〇一年。別冊太陽『日本の妖怪』平凡社、一九八七年。

http://www.lib.seijo.ac.jp/Kansu/01_kaikichojyuh.html。枳尾武「日本における山海経図―山海経絵と山海異物―」(『東洋文庫』「東洋学報」九一―四、二〇一〇年三月)、尾崎勤「怪奇鳥獸図巻」と中国日用類書」(『汲古』四五、二〇〇四年六月)など参照。

(2) 小川陽一ほか編『中国日用類書集成』(汲古書院、一九九九)

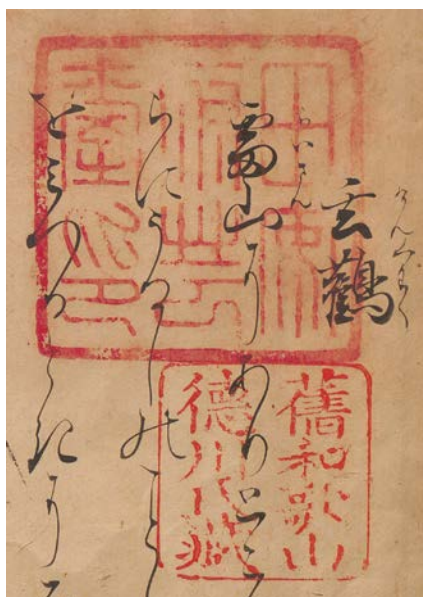
二〇〇四年)、中国社会科学学院歴史研究所文化室編『明代通俗日用類書集刊』(西南師範大学出版社・東方出版社、二〇一一年)に影印を収録。京都大学谷村文庫本、市立米沢図書館本等は全デジタル画像を公開。あわせて、海野一隆『異国物語』の種本『日本古書通信』九〇二、二〇〇四年九月)など参照。

〔附記〕

貴重な資料の掲載をご許可下さいました東京大学総合図書館に御礼申し上げます。

〔凡例〕禽類は通し番号を付し、原本の画像、その翻刻を掲載した。翻刻の濁点は原文どおりとし、通読の便のため私に句点を加えた。また、スペンサー・コレクション本の詞書〔S〕と、明代日用類書のうち、最も収録図の多い『妙錦萬寶全書』(萬寶)の本文を添え、本稿末には収録図の対象表を掲げた。

蔵書印



1. 玄鶴

雷山にあり。ところぐ、まだらにうるしのことし、三百六十年をみつるときに、みな、くろくなる、わうしやのをんがくあるときにきたる、くはうてい、がくをこんろん山にならふとき、けんくわく、とびかけるといへり、

【S】雷山に玄鶴といふものあり、粹黒して漆のことし、その壽三百六十歳にみつるときは、すなはち、鈍黒、王者音楽の節なるをもつて、すなはちいたる、むかし黄帝樂をならへり、崑崙山におゐて玄鶴とびかけることあり、

【萬寶】雷山有玄鶴者粹黒如漆其壽滿三百六十歳則色純黒王者以昔樂之節則至昔黄帝習樂於崑崙山有玄鶴飛翔

2. 旱方鳥

ぎしやうさんに鳥あり、これを見れば、いのちながし、じやうじよじつにはく、ぶているとき、あしひとつあるつるをさゝげたり、人みなあやしむ、とうばうさく、そうしていはく、山かいきやうにいはく、ひはうてうなりと、心むれば、はたしてこのとりなり、

【S】義章山に鳥あり、かたち鶴のごとくにして一足なり、赤紋白喙なつて旱方鳥といふ、見ゆるときは、すなはちことあるなり、尚書決にいわく、漢の武帝の時、獨足鶴をたてまつるものあり、人みなもつて怪異とす、東方朔かそうしてまうさく、山海経に旱方鳥といへるはこれにあらはなりと、はたして是なり、

【萬寶】義章山有鳥狀如鶴一足赤紋白喙名曰旱方鳥見則有壽尚書實云漢武帝時有獻獨足鶴者人皆以為怪異東方朔奏曰山海經云旱方鳥也驗之果是

3. 鵠餘

よくばうさんの中にあり、このとり、かしら三つ、お六つ有、みづから女とおになるなり、よくわらふ、その名をきよといふ、これをくらへば、ねふらす、つはものをふせぐ、

【S】翼望山の中に鳥あり、そのかたち鳥のごとくにして、三首六尾なり、みづから牝牡をなしてよくわらふ、その名を鵠餘といふ、これを服すれば、人をしてねふらざらしむ、これを佩すれば、凶兵をふせくへし、

【萬寶】翼望山之中有鳥其形狀如鳥而三首六尾自為牝牡善笑其名曰鵠餘服之令人不昧音昧物入目中曰昧佩之可禦兵

4. 鸞

ちよまさんにあり、此鳥いつるときは天下太平なり、しうのけいわうの時、にしのえひす國より、さゝけきたる、

【S】女麻山に鳥あり、かたち翟のごとし、玉乗ことくそなはる、身は雉のごとくにして、尾はながし、名つけて鸞といふ、見ゆるときはすなはち天下太平なり、周の景王の時、西戎よりたてまつれり、

【萬寶】女來山有鳥狀如翟玉乘畢備身如雉而尾長名曰鸞見則天下太平周

成王時西戎曾將來獻

5. 瞿如くじよ

たうくわさんに此鳥あり、それ、にはとりににて、尾はしろくなかし、かしら三つ有、なくこと、くぢよといふ也、

【S】なし

【萬寶】 袴過山有鳥狀如鵠似鳧脚而小延尾白首三面二足曰瞿如其鳴亦自呼

6. 蜚鼠しそ

くふさんにとり有、かたちははとりのことし、おはねずみの尾に、たり、みづから、しそとなく、あらはるゝ時、大きにひてりす、

【S】 拘扶山に鳥あり、かたちこふさん鶏のことくにして、鼠尾ねずみのおなり、名つけて蜚鼠しそといふ、見ゆるときは大に早ひでりす、

【萬寶】 狗扶山有鳥狀如鷄而鼠尾名曰蜚鼠見則大早

*明代日用類書のうち、「不求人」系統の本文は「数斯」の呼称で立項する。

7. 鸞鷯がくさく

たんけつさんに、がくさく有、ほうわうのたくひなり、また神鳥じんてうなり、國語こくごにいはいく、しうのよ、おこらんとするとき、かくさく、きさんになくとあり、

【S】 丹穴山に鸞鷯といふものあり、鳳ほうのたぐひ、又神鳥しんてうなり、鳳ほうのこと

く五色にして、紫むらさきおほし、國語こくごにいわく、周しうのおこらんとて、鸞鷯らんらん岐山きさんになけり、

【萬寶】 丹穴山有鸞鷯者鳳之属也亦神鳥也如鳳五色而多紫國語曰周之興也亦鸞鷯鳴于岐

8. 比翼鳥ひよくてう

けつこうこくに、ひよくのとりあり、じがにいはいく、なんばうに、ひよくてうあり、これをけんといふ、けむのちうに、目ひとつ、つばさ一つあり、あはせてとぶ、ひとつとふこと、あたはず、ていわう、かうくのとくあるとき、此とりいづるなり、

【S】 結胸國に比翼鳥あり、尔雅しがにいはいく、南方ひよくのに比翼鳥あり、比ならへしてはとぶことあたはず、これを鵽けんといふ、鵽ひよくは鳧かものかたちにて、一目一翼つはさにして、あをくあかき色なり、あひまち合てすなはちとぶなり、王者孝德幽遠わうしやうとくゆうえんなるときは、そのとりいたれる也、

【萬寶】 結胸國有比翼鳥尔雅云南方有比翼鳥不比不飛謂之鵽鵽註云似鳧其狀一目一翼而青赤色相得乃飛王者有孝德幽遠則其禽乃至矣

9. 数斯すし

かたちからすのことくにて、あしは人のことし、なづけてすしといふ、わか身をくらひて、やするなり、

【S】 (項目名は数斯すし) そのかたち、鴉かすのことくにして人の足なり、数斯と名づく、おのれか瘦そをくらへり、

【萬寶】（項目名は瘦斯）其狀如鴉人足名瘦斯食之已瘦



京都大学谷村文庫蔵

『新刻群書摘要士民便用一事不求人』

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

item/rb00012389

10. 鳧溪^{ふけい}

ろくたいさん^{ろくたいさん}にあり、名をみつからふけいとよぶ、このとりいつるときは、ひやうらんおこるといへり、

【S】鹿臺山^{ろくたいさん}に鳥あり、かたち雄鶏^{ゆうけい}のことくにして人面^{ひとのかほ}なり、名つけて鳧溪^{ふけい}といふ、そのなくこと、みつからよばふ、見ゆるときは兵乱^{ひやうらん}あり、

【萬寶】鹿臺山有鳥形如雄雞人面名曰鳧溪自鳴自呼見則有兵

11. 鸛^{がく}

かしらひとつに身三つあり、かたち、くまたかのことく、くろきもんあり、かしらは、いろあかし、

【S】なし

【萬寶】一首三身狀如鵬黒紋而赤頸名曰鸛

12. 駝鷄^{だけい}

せいざんにあり、かしらのたかさ七尺あまり、かたちはにとりのことし、

【S】西山^{せいざん}に鳥あり、頭のたかさ七尺あまり、名つけて駝鷄^{だけい}といへり、かたちまた鷄^{にせう}のことくにして長頸^{ながくび}なり、

【萬寶】西山有鳥頭高七尺餘名曰駝鷄狀亦如鷄

13. 鵝^{しや}

ちやうぜつさんにあり、名つけてしゆといふ、なくこと、わか名をよぶ、このとりあらはるゝとき、そのくに、わざわひ有て、人おほくしせり、

【S】長舌山^{ちやうせつ}の中に鳥あり、そのかたち鵝^かのことし、人頭^{ひとのかほ}人面^{ひとのかほ}なり、あしは人の手のことく、身は鳥のことし、名つけて鵝^{しや}といへり、その名をみつからよばふ、見ゆるときはすなはち、その國の王出はなち、多曠^{くわう}の士またおほくはなたる、

【萬寶】長舌山中有鳥其形狀如鵝而首人面脚如人手而鳥身名曰鵝其鳴自呼見則其國主多曠士又主多放士^{放逐也}

14. 蹠斯^{そき}

くはんだいさんに、そきといふとりあり、人を見ると、すなはち、おとる、みつからなくこと、わが名をよぶ、

【S】なし

【萬寶】灌題山有鳥狀如雌雉反面見人乃躍名曰蹠斯自其鳴自呼

15. 鳴鵒こよ

たんやうさんに、とりあり、かたちはからすにたり、あしあかく、きよくわに、て、なくこと、わか名をよふ、

【S】なし

【萬寶】 杻陽山有鳥狀如鳥足赤色名曰鳴鵒可以禦穴

16. 長尾鵒ちやうひけい

てうせんこくにあり、かたちは、にはとりににて、おのなかさ三じやくあまり、

【S】なし

【萬寶】 朝鮮有鳥狀如鵒其毛長三尺名曰長尾鵒

17. 飛魚ひぎよ

つのあり、ひれあり、あし四つ、身にもんあり、

【S】 颯山きさんの河中かちうに飛魚ひぎよおほし、かたち豚いのこのことし、あかき紋もんあつて三足ぞくにして角つのあり、これを佩はいすれば雷霆らいていをおそれず、また兵つはものをふせくとなり、

【萬寶】 颯山音颯河中多飛魚狀如豚赤紋三足有角佩之不畏雷霆亦可以禦兵

*日用類書およびS本ともに「飛魚」は三本足であるが、東大本は四つ足に描く。『三才図会』の「飛魚」が四枚の鰭を持つ表現に近い。

18. 馬鵒ばけい

かこくさんにあり、かたちは、にはとりのことし、くちばし、あし、くれなゐにして、はねもけもあをく、みとり色なり、

【S】なし

【萬寶】 嘉谷山有鳥狀如鵒嘴脚皆紅羽毛青緑名曰馬鵒

19. 絜鰐けつきん

しんさんにあり、かしら、あし、かものことくにて、おはねすみののおごとし、木によくはいのほる、此鳥みゆる時は、國にかさをわつらふ、

【S】なし

【萬寶】 磴音真山有鳥狀如鳬而鼠尾善登木名曰絜鰐見則國多疾疫



国立公文書館デジタルアーカイブ
『三才図会』「飛魚」

20・精衛^{せいゑい}

はつきうさんに、とりあり、かたち、からすのことくにて、かしらしろく、くちばしあかし、なく事、せいえいといふ、

【S】なし

【萬寶】 発鳩山有鳥状如鳥白首赤喙名曰精衛自鳴自呼是神農之少女名女

娃昔迪東海溺而不返化為精衛常収西山之林石以填東海

21・鵙^{せうぶ}

きさんのうちにあり、そのかたち、にはとりのことくにして、身一つに、かしら三つあり、はかいは三つ、あし六つあり、これをくらへは、人わなくなり、ねふることなし、なくこと、せうふといふ、

【S】なし

【萬寶】 鵙鳩鳥者生居基山之中其形状如鷄一身三首六目六足三翼名曰鵙

鳩食之令人少睡

22・鵙^ぐ

かたち、かうにいたり、人のかほにて、目四つ、み、あり、みゆる時は、大きにひでり、

【S】なし

【萬寶】 鷄山有鳥状如梟人面四目有耳名曰鵙^{音隅}其鳴自呼見則大旱

23・鵙^{ぼえ}

からすのことく、身のいろしろく、お、あかく、あし六つあり、大かうさんにいつ、

【S】なし

【萬寶】 なし

24・鵙^た

にはとりに、たり、目三つ、こゑ、ゐのこのことし、これをくへは、ねつをやぶる、

【S】なし

【萬寶】 なし

25・鵙^ぶ

やまとりのことく、尾なかくして身あかし、なくこゑ、わかなをよぶ、

【S】なし

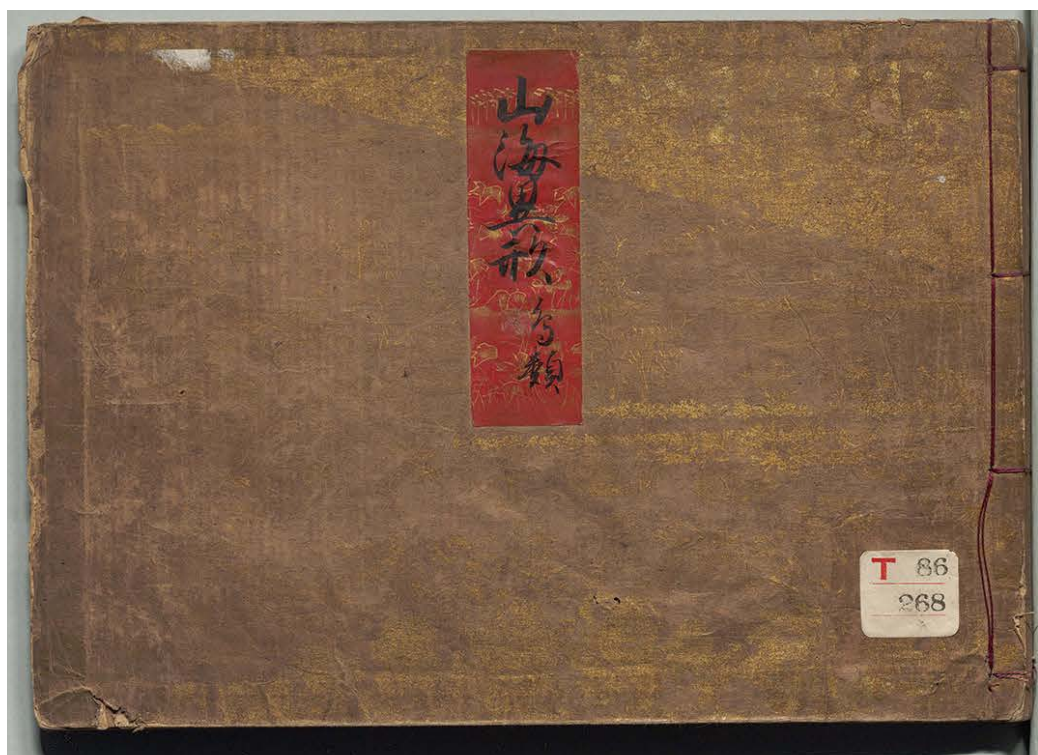
【萬寶】 なし

26・樂鳥^{うてう}

りんかいさんに、らくてういつることあり、そのかたち、五しき也、くちばし^{あかき}丹なり、かしら^{しゆ}朱なり、あかきくはんあり、ていわう、めいとくにして、天下太平のときみゆる、

【S】なし

【萬寶】 臨海山有出樂鳥其状五色丹喙赤首有冠王者有明德天下太平則見



表紙



前見返し



1. 玄鶴



2. 早方鳥



3. 鶇鶇



4. 鶴



5. 瞿如



6. 螢鼠



7. 鶯鷲



8. 比翼鳥



9. 数斯



10. 鬼溪



11. 鶴



12. 駝鶏





16. 長尾鶏



17. 飛魚



18. 馬鶏



19. 鵜飼



20. 精衛



21. 鵲



22. 鶴



23. 鶴



24. 鶏



25. 鶏



26. 樂鳥



後ろ見返し



後ろ表紙

収録図対照表

			『妙錦萬寶全書』 卷之四 諸夷門「山海異物」 全 146 図 建仁寺兩足院本 『中国日用類書集成』 12 所収	スペンサー・コレクション本 『山海異物』 全 47 図
	東京大学本 『山海異形 鳥類』 全 26 図			
	鳥類 (26 図)	※	禽類 (31 図)	禽類 (11 図)
1	玄鶴 (けんくわく)	02	01 旱方鳥	旱方鳥 (ひはうてう)
2	畢方鳥 (ひはうてう)	01	02 玄鶴	玄鶴 (けんくはく)
3	鵠餘 (きよ)	22	03 青耕 (東大本なし)	鸞 (らん)
4	鸞 (らん)	18	04 鵠鳥 (東大本なし)	比翼鳥 (ひよくのとり)
5	瞿如 (くじよ)	23	05 樂鳥	鸞鸞 (がくさく)
6	蜚鼠 (しそ)	24	06 腐脂 (東大本なし)	蜚鼠 (しそ)
7	鸞鸞 (がくさく)	19	07 鸛鳥 (東大本なし)	数斯 (すし)
8	比翼鳥 (ひよくてう)	10	08 蠹蜚 (東大本なし)	鳧溪 (ふけい)
9	数斯 (すし)	25	09 蹠斯	駝鷄 (だけい) ※以上上冊
10	鳧溪 (ふけい)	27	10 比翼鳥	鵠 (しゆ) ※以下下冊
11	鵠 (がく)	11	11 鵠	鵠餘 (きよ)
12	駝鷄 (だけい)	30	12 鳴鵠	
13	鵠 (しゆ)	21	13 絜鈎	
14	蹠斯 (そき)	09	14 精衛	
15	鳴鵠 (こよ)	12	15 鳥鼠同穴 (東大本なし)	
16	長尾鵠 (ちやうびけい)	31	16 鵠	
17	飛魚 (ひぎよ)	—	17 當扈 (東大本なし)	
18	馬鷄 (ばけい)	29	18 鸞	
19	絜鈎 (けつきん)	13	19 鸞鸞	
20	精衛 (せいえい)	14	20 鵠鵠	
21	鵠鵠 (せうふ)	20	21 鵠	
22	鵠 (ぐ)	16	22 鵠餘	
23	鵠 (ほん)	—	23 瞿如	
24	馱 (たい)	—	24 蜚鼠	
25	鸛 (よう)	—	25 瘿斯	
26	樂鳥 (らくてう)	05	26 鵠 (東大本なし)	
			27 鳧溪	
			28 白雉 (東大本なし)	
			29 馬鷄	
			30 駝鷄	
			31 尾長鷄	

東大本※欄には『妙錦萬寶全書』の通し番号を示した。スペンサー本・東大本の()は原本の振り仮名。